第２研究課題　第２分科会

「子供の発達に関する課題」

研究主題　　「特別な配慮を要する児童生徒への対応と支援体制」

―適切かつ組織的・継続的な支援に向けての教頭の役割―

綾川町立羽床小学校　　山　内　雅　子

１　研究の概要

現在、特別な配慮を要する児童生徒は、年々増加し、配慮の内容やニーズも多様化、複雑化する傾向にあり、その対応には専門スタッフも含めチーム学校としての力が求められている。香川県綾歌支部小・中教頭会では、これまで各校の実態に応じた支援の具体例をもとに、同会において各校の実践を情報交換することで、効果的な支援の共有を図ってきた。その取組において、限られたリソース（人的・物的資源）の中で効果的な支援を実現していくためには、個々の力を関連付けるコーディネーターとしての教頭の役割が重要であり、①環境の整備、②人的配置、③専門人材、専門機関との連携、④教職員の能力の向上の４つの観点からコーディネートすることが効果的な支援につながることが見えてきた。

本研究では、４つの観点からこれまでの各校の支援を見直し、支援体制の整備を行うことで、適切かつ組織的・継続的な支援に向けた教頭の役割の在り方についてまとめた。

２　研究の内容

実　践　内　容	教頭としての関わり
(1)　各校での実践と教頭会での実践交流	○　各校の実態に合わせ、特別な配慮を要する児童生徒への対応と、支援体制の整備に取り組み、教頭として有効なコーディネートについて検討する。
(2)　４つの観点による具体的支援のまとめ	
ア　環境の整備	○　教室の座席の工夫、空き教室の活用など、整備することによって児童生徒の居場所づくりに活用できる環境の洗い出しを行う。
イ　人的配置	○　校内組織の機能的運用と、特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制を整備する。
ウ　専門人材、専門機関との連携	○　児童生徒の状況や保護者の要望を鑑み、活用する専門人材を決定し、役割分担する。 ○　専門機関との連携を促す。
エ　教職員の資質能力の向上	○　教職員に「支援に関する自己チェック」と「管理職にしてほしいサポートについてのアンケート」を実施する。 ○　教職員のニーズに合った研修を設定する。

３　教頭としての今後の課題

(1)　研究で見いだした４つの観点で各校の支援を見直してみると、それぞれの観点が有機的に関連することで、支援の効果が上がっていることが分かった。今後、特別な支援が必要な児童生徒への対応と支援体制を考える際、教頭として、この４観点から支援を見直した上で、各観点をうまく関連させることについても考えていきたい。

(2)　教職員対象のアンケートは、研修に役立てるだけでなく、各校の実践の成果と課題を明らかにするのにも有効であった。そこで、今後もアンケートを活用して、教職員からの要望を吸い上げながら、教頭してできるサポートを計画的に整備・充実させていきたい。